

---

# 闇の世界で生きるもの

暗黒の無双龍 漆黒の闇

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

闇の世界で生きるもの

### 【Nコード】

N2655Y

### 【作者名】

暗黒の無双龍 漆黒の闇

### 【あらすじ】

闇の中で一人の存在が仲間とともに・・・

## 1 - 1 これが全ての始まり

「ここは何で自分とは何か」

闇。

其れはどういう場所をさす言葉なのだろうか？

ここは、何所の世界とも繋がっていない空間。

ただ常に新しい存在が作られている。

自分、都濃上壺つのおんこうた詩もこの空間によって作られた存在の1つ。しかし、

自分には、何故か別の世界の記憶がある。其処は、あたたかく、懐かしい場所のように思えた。それに比べると、ここは、何も無く、

周りには、沢山の存在がいるのにとて寂しく冷たい場所だ。きつ

とこういう場所のことを闇というのだろう。そして自分はいった

い何なのか。この闇の気まぐれで作られている自分は。一人考えて

ると一人の存在が声をかけてきた。

「ここから逃げないか」

## 1・1これが全ての始まり（後書き）

はじめまして。これから少しずつ書いていこうと思います。詰ま  
ないかもしれません。未永く見守ってください

## 1 - 2 新しい仲間

「ここから逃げないか？」

きつと声の持ち主は男の老人だろう。このときこの老人が何がい  
たいのか分からなかった。だがしゃべれるっていうことは、作られ  
たばかりなのだろう。この闇は存在を作るとその作った存在から意  
識を取り除いていく。いや、正確には意識を新しい存在に使ってい  
る。つまり意識をたらいまわしにしているのだ。

「えっ？逃げるってどういうことですか？」

「この闇から出るとのことだよ。」

「もしかしてこの闇以外の世界を知っているのですか？」

自分には老人の気持ちに分からなかった。だが其れはすぐに分かっ  
た。

「いいや知らないよ。でもここより悪いとこなんて無いと思うから  
ね。そういう君は、この闇以外の世界を知っているのか？知ってい  
るなら是非教えてくれ。」

自分にはこの問いかけに答えることが出来なかった。なぜなら自分  
には、大雑把な記憶の断片みたいなものしかないのだから。だが答  
えはすぐに思いついた。

「・・・よくは分かりません。ただ懐かしくて暖かい所だと思いま  
す。自分は都濃上壺詩と言います。都濃上と呼んで下さい。あなた  
の名前は何ですか？」

「私の名は呂奇夢甲李だよ。甲李と呼んでくれ。それより、他に意  
識が残ってる存在を探さないかい？」

「そうですね。これからしばらく宜しくお願いします。早速探しに  
行きましょう。」

しばらく歩いていると突然強い風みたいなものが吹いたと思うと新  
しい存在が誕生した。自分たちは何が目の前で起こったのか分から  
なかった。しかしそれは時間にしてほんの30秒位だった。

「・・・甲李さんもしかしてこれが存在の誕生の瞬間なのでしょうか？」

「ああ多分そうだろう。声をかけてみよう。」  
話しかけようとした瞬間

「あなたたちは誰？ここは何所？」  
その誕生したばかりの存在はとても小さく幼かった。

「ここに名前はありません。いや誰も知らないと表現するのが正しいでしょう。自分たちは『闇』とこの空間を呼んでいます。自分は都濃上壺詩と言います。都濃上と呼んで下さい。」

「私は呂奇夢甲李だよ。甲李と呼んでくれ。君はなんて名前何だい？」

「僕は、無鬼孝康人康と御呼び下さい。都濃上さんと甲李さんほどのような関係ですか？」

「自分たちは、ここから出たいという同一の願望を持ち、行動を共にしているだけの関係で、それ以上でもそれ以下でもありません。康さんあなたも一緒に行動しませんか？」

「僕も一緒に行動しても良いんですか？」

「もちろんです。」

すると突然後ろから声をかけられました。

「俺は、魍魎美弥まじりみつてんだ。魍魎と呼んでくれ。都濃上・甲李・康。面白そうだからそのグループに俺も加えてくんねーか？」

「動機は何であれ仲間が多い方が良いですよね甲李さん？」

「そうだな。宜しく頼むな魍魎。」

「このメンバー全員でこの闇から出ましょう！」

「まずは闇について調べてみようぜ。」

「そうですね魍魎さん」

これからたくさんさんの試練で傷つくことになることを誰も知ることは無かった。

## 1 - 2 新しい仲間（後書き）

一週間以内に3話目を書こうと思います。

## 闇の世界のこと

闇の中で作られて早一ヶ月。

時々新しい存在が作られているが、今は、ほって置こう。

「うろうろう・・・」

「どうした魍魎？大丈夫か？」

「・・・うろう」

「魍魎さん魍魎さん！」

「はあはあはあはあ。気にするな。だが一応伝えておこう。闇に意識を取られるときには、死ぬような痛みがある。そして、意識をとられるのは、約半年後だ。俺は、8ヶ月前に作られた。」

「そんな。」

「早くここから出れるようにもつとこのことについて調べよう？」

「そうだ。とにかく少しでも早くここから出てこの痛みから逃れたい。」

自分たちはひたすら歩いた。何度も新しい存在に声をかけられた。でも今の自分たちでは何も言えず何もしてあげられなかった。そうしてると、扉が在った。そして扉が開いたと思ったら、とても大きな存在が現れた。それが言った。

「御前らは何をしている？ここは、本来ここで作られた存在だけでは来れない場所だ。」

「あなたはいつたい誰で何を知っているのですか？」

「俺様は、この世界を作った男だ。つまり君たちが闇と呼んでいるこの世界の全てを知っている。だが御前らに教える気は無いがな。ハッハッハハハ。とつとと向こうに帰れ屑ども。」

といって自分たちをつかんで元来た以上の闇に投げられた。

「今までにこの闇について分かったことをまとめてみましょう。」

「そうだな。むやみに歩いてもまたあの男にやられるかもしれないからな。」

「今までに分かったことは二つ、予想が1つ在ります。まず分かったことの一つ目は、意識をとられるときに死ぬほど痛いという事です。これについては、魍魎さんが一番分かっていると思います。二つ目は、あの男によってこの闇が作られたという事です。これはあの男の言うことを信じた場合のことです。しかし、あの男が、嘘をついているとは考えにくいです。なぜなら、彼には自分たちをだます理由がありません。」

「そうだよな。それより予想って何だよ。」

「それは、あの扉がこの闇と他の世界を繋いでいるのではないかという事です。これは、まだ曖昧ですが、あの扉が開いた瞬間、彼が現れたからです。」

「なるほど。さすが都濃上さん。僕には全く気付けませんでした。」

「そうなるよ、あの男をどうにかするしかありませんね。」

「それは、ほぼ間違いなく無理だと思います。なぜならここには武器になるものが無いからです。」

「ううう・・・それは、・・・別の・・・出入口を探すということか？」

「はい。それしかここから出る方法は無いでしょう。」

## 闇の世界のこと（後書き）

遅くなつてすみません。

## 都濃上の過去

「この闇から出るための別の出口を探すとしてもこの闇を作った人について調べたほうが良いと思います。」

「確かに調べると何か弱みをつかめるかもな！」

「……………」

『「なあ都濃上。」「どうしたんだ浩太？」「御前相変わらず遼子ちゃんほつたらかshにしてんのか？」「人間きが悪いな。」「……………」おい浩太よける」ドンという強い衝撃が都濃上を襲った。「おい都濃！都濃！御前もし死んだら地獄まで追いかけてでも連れて帰るからな！」「其れは……………とても・怖い……………です・ね」ピーポーピーポー』

「どうした都濃上？」

「……………ん？どうしたんですか？皆さん怖い顔をして」

「だって御前何回呼んでも返事しなかつたんだぞ！」

「悪いけれど少し一人にしていただけませんか？」

「リーダーがそういうなら」

（さっきのはいったいなんだっただでしょうか。）

今もっている記憶（？）をあわせると

自分は都濃上壺詩28歳独身 弧乃井詩遼子という恋人がいるらしい

いそしてトラックにひかれて病院に運ばれたらしい 年収二兆ド

ラス（作者のいる世界で一兆五千億円）の大富豪でもある。

都濃上の過去（後書き）

最近本当にねたが思いつかない 短くてすみません

## 闇から出るために

「都濃上さん、都濃上さん。」

「どうしたんですか？康さん？」

「其の刀みたいなのは何かな　なんて思ったものですから。」

「刀？何其れ？・・・・・・本当だ」

「これ使えませんかねー？」

「そうでうすね。何でしょうこれよくわかりませんね。っん？うわっ」

シュシュウウウウモクモク

「「こほっこほっ」「おい！都濃上何だこのけむりは？エエ！？」

「其れは自分が聞きたいことです。『思いは強さ。強みは思い。』  
ですか」

「何だ其の言葉？」

「とりあえず皆さん何か武器っぽいのを強く思い描いてください。」

「「おうっ」「」

スウポン

都濃上　刀と翼　・甲李　ボウガン　・康　一本槍　・魍魎　ハン

マー　という武器が現れた。

「何だこれ面白いなおい」

「別の武器を思い描いてください。」

スウポン

都濃上　大太刀と防具と翼　・甲李　弓矢と防具　・康　棒×2　・

魍魎　扇

「いつでも自由に出来るようになりましょう。修行のあと門番と戦争です。」

「御前のその翼どうやったら出来るんだ？」

「確かに気になる」

「これは自分の強さの象徴みたいな物です。思い描くと出せると思いますよ。何でも強く思うことが大切です。これも重いが弱くなる  
と武器の能力も弱くなり消えて（ばくはつしょうめつ）しまいます。  
」

「其れは其れで良い武器になるな爆破武器」

「そうですね」

それから一年間思いが強くなったせいか闇の侵食を受けることなく修行が終わりそして今再びあの門までやってきた。

闇から出るために(後書き)

遅くなりました

## つまらない設定説明（前書き）

先に言いますがこれはつまらないです。この世界について設定が気になる人は読んで下さい

## つまらない設定説明

都濃上壺詩 28歳独身 闇の世界でのイレギュラー別の世界「エキストラワールド」(「都濃上達が逃げようとしてる世界」を知っている。

得物・・・刀(一メートル弱) 翼(片翼二メートル) 大太刀(二メートル半強) 防具  
呂奇夢甲李 56歳バツ二 詐欺師 という設定で闇から逃げた時に定着する

得物・・・ボウガン(三十センチ) 弓矢(一メートル) 防具  
無鬼孝康人 13歳彼女がいる 無邪気な小学六年生 という設定で闇から逃げた時に定着する

得物・・・一本槍(二メートル弱) 棒×2(一メートル) 半メートル 合体可能)  
魍魎美弥 35歳婚約中 暴走族のリーダー という設定で闇から逃げた時に定着する

得物・・・ハンマー(三十センチ) 扇(一メートル)  
弧乃井詩遼子 25歳独身 この人はよく分からない

闇の番人 25歳独身 史上最悪の天才闇の創造者IQ300  
オーバー

闇 闇の番人が人間の負の感情(エキストラワールド内の)を集めて出来た新世界どのような原理で人が来るのかは不明  
ある条件に当てはまると呼ばれる 時間の進み方はエキストラワールドの30倍ただし体感速度は全く同じ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2655y/>

---

闇の世界で生きるもの

2012年1月6日10時45分発行